

今年も残すところ1カ月となりました



早いもので、今年も残すところ約1か月となりました。3年生は推薦入試の結果が始め、来週には群大を含め国公立の結果が出てきます。そして、いよいよ受験が本格化し、来月の14日、15日には共通テストが行われ、1月後半からは私立の受験が始まり、2月25日は国公立の前期試験と今後さらに緊張感が高まっていくことが予想されます。テストに向けての準備の中で一番大切なのは体調管理です。これからインフルエンザやコロナが流行ってくるので体調管理に気を付けながら、受験に臨んでいきましょう。

一方で1、2年生は期末テストも終わり、ほっと一息ついているところでしょうか。1、2年生にとって受験はまだまだ先のこととあって余裕で構えているとあっという間に時が立ち、「もっとこうすればよかった」、「ああすればよかった」と後悔することになりかねません。2年生にとっては残り1年、1年生にとっては残り2年をどう計画を立てながら、自分の希望する進路を実現していくか考えていく必要があります。後で「計画の実行」に必要なことについて述べますが、未来の「果」は現在の「因」にあることを意識して、今からしっかり対策をしてほしいところです。

いよいよ来月は共通テスト！！



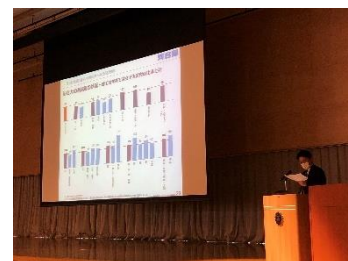
今年度の共通テスト実施日は2023年1月14日(土)と15日(日)で、疾病や負傷等やむを得ない事情で本試験が受験できない者には、2023年1月28日(土)と29日(日)に追試験が行われます。もちろん、競う相手はいるわけですが、自分がベストを尽くせなければ元も子もありません。体調管理を含め、目標点に近づけるように最後の最後まであきらめず全力で向かっていってください。

この時期によく生徒から12月～1月中旬の共通テスト直前期の「共通テスト対策」とその後に必要な「二次試験対策」はどうしたらよいですかと質問されます。共通テスト対策と個別試験対策とのバランスなど、受験生が悩みがちなポイントになると思いますが、共通テスト対策を中心にしつつ、個別試験対策をゼロにはしないことが大事です。例えば、個別試験の記述の勘も維持するために共通テストの国語や数学の解答を、選択肢を隠して自分で記述して解くことで、個別試験の練習にもなります。また、共通テスト対策の範囲内に収まらない「記述対策(特に英作文)」「数Ⅲの演習」は継続しないと一気にできなくなりますのでできる限り継続していく必要があります。共通テスト対策に全力を出し過ぎてしまうと、終わった後に、いわゆる「マークぼけ」で、スムーズな個別試験対策移行ができなくなったり、燃え尽きてしまう生徒が毎年必ず一定数います。個別試験を頭の中から消さないことで共通テスト後に燃え尽きることがありません。切り替えもスムーズに行えます。共通テストがゴールでない！燃え尽きぬこと！その後には私大入試や個別試験を控えていますので、共通テストを通過点としてとらえ、気持ちを切らさず学習を進めてください。

12月中旬からは共通テスト直前の時期なので、基本的には共通テスト対策をメインに据えるのがよいのですが、目標とする共通テストの点数を考えて、どの科目でどう点数をとるかをシミュレーションをした上で考えて、合理的に勉強していくことも大切です。例えば、英語や数学で現在8割取れるような生徒が本番では9割取りたいとって英語や数学に勉強時間を費やすより、理系なら地理などの暗記科目で1割上げの方が簡単かもしれませんし、文系なら理科基礎で1割上げの方が効率が良いかもしれません。昨年度の数学は難しく、試験が終わった後に泣き出す生徒がいたほどです。点数が取れるかどうかわからない不確定要素が高い科目や費用対効果があまりよくない科目に時間を費やすより、やったら必ず点数が上がりそうな暗記科目に時間をかける方が合理的な場合があります。したがって、今ある程度点数が取れている科目については現状維持、またはケアレスミスをなくしながら点数の向上を図り、まだあまり手を付けていない科目で一気に点数を上げる方がもっとも効率的とも考えられます。共通テストの点数はあくまでも総合点での勝負なので、全体の点数をどう上げるかを考えながら勉強を行うことが大きく勝敗を分けるかもしれません。こういったことも一つの戦略ですので、これまで受けた模試をもう一度見ながら担任の先生や進路の先生とよく相談しながら残りの一か月をより合理的に、効率よく勉強を進めていってほしいと思います。受験生、頑張り！

第五回 保護者対象進路研究会の実施

11月19日(土)本校武揚ホールにて第5回保護者対象『進路研究会』を開催いたしました。学校法人河合塾東日本営業部の青木雄将先生をお招きして、今年度の入試動向の予測、また現1年生の学年から始まった新課程による入試について解説していただきました。自分の志望する大学の動向を知るために積極的に情報を集めていく必要があります。進路は情報戦となります。情報が得られていたら、もう少し優位に準備を進められた、または穴場の学部に出願できたことによって合格が勝ち取れたなどのことが実際に起こってきます。対策は早ければ早いほどよい！自ら動き、進路の先生、または担任の先生に相談してください。(主な内容は以下)



- ・受験生人口は減少、募集定員は増加。継続して競争緩和傾向。
- ・志望学問系統では国私共に、文系では法政経が人気、人文や国際が不人気傾向。理系では歯薬医療技術などの資格系と人気(社会情勢不安シフト)。女子理系志望者の増加に伴い、化学、生命科学、農が前年より人気傾向。前年までの情報の人気増は収まってきている傾向。
- ・国公立志願者は微増。特に旧帝やブロック大で増加。
- ・私立大学は志願者減。しかし、早慶上理、GMARCHは増。その他は成蹊と武蔵、東洋は増。それ以外は概ね減少。
- ・国公立、私立共に上位大学の志願者増。強気傾向なので今後の動向に注意が必要。
- ・私大専願者は共通テスト利用を切る傾向。
- ・東京理科大の新設学部である創域理工学部は前身の理工学部に対して易化予想。

- ・旭川大学が来年4月から公立化。今年度は私大型入試。また、周南公立大が2022年4月から公立化。
- ・医学部受験においては共通テスト80%(716点)はほしいところ。
- ・難関10大学(北海道、東北、東京、一橋、東工、名古屋、京都、大阪、神戸、九州)の合格者平均は77%(692点)。
- ・首都圏の私立大学で合格を勝ち取るためには英語で勝ち切る必要がある。傾斜配点があることが多い。
- ・中期、後期までしっかり考えた出願を。受かる確率がかなり高くなる傾向。
- ・文理双方から受験可能な科目設定。例えば、一橋大学のソーシャル・データサイエンス学部では一般選抜の2次試験では英、数ⅡB、国、総と文理双方からの受験が可能。
- ・早稲田を含め、多くの大学が共通テストを受ける生徒を積極的に合格させようという選抜方法を設定している。
- ・都市部の女子大の人气が下降傾向。しかし、ブランド力や就職を考えるとお得感はある。
- ・現在の高校二年生は現一年生から指導要領が変わっているの、浪人すると入試の形式や内容が変わる可能性がある。そのため、受験生は超安全志向になる可能性がある。実際、センター試験から共通テストに変わる前年度はかなりの安全志向になった。
- ・新課程の共通テストでは国語の時間が80分から90分に。数学では数Ⅱがなくなり、数学ⅡBCになり、時間も60分から70分に。情報は60分で100点になるが、各大学の配点は未定。
- ・新課程においてはまだまだ流動的な部分があり、情報が必須の大学もあれば、課さない大学もある。今後の大学の発表に注目していくことが大事。

計画通りに学習が進められる人に

計画通り何かを進めようとするとき、計画通りにできる人とできない人がいますが、この違いは何なのでしょう？いくつか要素はあると思いますが、よく言われるのが、まず①論理的であるということです。計画を思い付きで立て、思い付きで実行すると、それは計画ではなくなります。一つの筋道にしたがって考え、実行するからこそ計画はうまく進みます。したがって、まずどのような手順で何をしていくかを論理立てて考えるところから始めてみましょう。そして、計画的に進められる人は、②自分のペースを守ることが出来ます。例えば、自分の調子が良くてもオーバーペースにならないようにコントロールしたり、悪かったときに無理をしないことです。続けることが大事なので、その日にやりすぎて次の日にやる気が無くなることもあるでしょうし、体調が悪いのに無理をしてやることで、次の日はもっと体調が悪くなるということが起こり得ます。自分をコントロールしていくことが大切です。また、③自分の能力を理解することも大事な要素です。例えば、暗記が得意な人とそうでない人がいます。得意でない人でも計画どおりに時間をかけて暗記しようと回数をこなしながら、最終的にキッチリ覚えきることが出来ます。一方で自分の能力を理解していない人ほど無謀な計画を立てて、安易にできるだろうと考え失



敗するケースが多々あります。そして、最後に④忍耐強さです。計画的な人は、自分の思うように事が進まなくとも、そこで焦らず淡々と計画に沿って行動する忍耐強さがあります。例えば、英語の学習においては、停滞期があり、がんばって勉強しているにもかかわらず、思ったように英語力が上がらない(特にリスニング)時期がありますが、計画的な人はこれも織り込んでるので、結果が出ない時でも忍耐強さを持って進めていくことができます。もちろん、計画でするので、常に思い通りになることはないですが、計画通りに進めようとするのが大事かと。12月中にもう一度、新年からの計画を練り直し、再スタートを切るのも一つの手ですね。

グローバルコース対象オーストラリア大学説明会

10月27日(木)にオーストラリアの Queensland University of Technology (QUT)の Executive Director の Ken Beutel さんより、大学についての説明会をオンラインで開催していただきました。説明会は本校グローバルコースの1年から3年に向けて行われ、2年生は海外からの参加となりました。1時間にわたり、QUTについて、どのような学位がとれるのか、学費、インターンシップ、キャンパスの雰囲気、街について、さまざまな視点からお話をいただきました。



日本の大学だけでなく海外の大学進学を視野に入れるグローバルコースの生徒たちにとって、オンラインではありましたが、現地の方に直接お話を聞くことができる貴重な機会となりました。1年生はより多くの選択肢を広げる時期であり、2,3年生は多くの選択肢から自分の進路を選ぶ時期です。自分たちの納得できる進路を選ぶために、まずは知ることが大事です。農大二高のグローバルコースでは現在オーストラリア、またはカナダへの一年間の留学を行っています。その後の進路は未定ですが、留学を通じて培った英語力や経験を自分たちの将来にしっかりと生かせるよう逆算しながら進路について考えていく必要があります。

1, 3年生グローバルコース対象 総合探究

11月10日(木)5,6時間目の総合探究にて1,3年生のグローバルコースを対象に群馬県みなかみ町の間伐材を使ったエッセンシャルオイルの製造を行っている LICCA 長壁総一郎さん、早也花さんよりワークショップを実施していただきました。「海外に出たからこそ、気が付いたこと」というテーマでご自身の海外(東ティモール、ラオス)での JICA の協力隊の経験についてのお話、また、なぜ現在のお仕事であるエッセンシャルオイルに取り組み始めたのか、日本の森林問題の現状や今日からできることについてのお話をいただきました。ワークショップでは実際にヒノキ、スギ、モミから抽出したオイルの匂いが、どの木から抽出されたのか当てながら、木の成分からそれぞれ異なった特徴のある香りがあることを体験的に学びました。また、エッセンシャルオイルの製造過程を学びながら、間伐材の利用の意義をふ



まえ、環境問題を考えるきっかけとなりました。講座の最後には海外での勤務経験の中で、思い通りにいかないこともあるけれど、感謝の気持ちを忘れず努力をしていく中で道は開かれるとのメッセージを頂きました。

将来何をやりたいかは今の段階でわからない生徒は多くいると思います。目の前のことに対して一生懸命取り組んでいないと自分にどんな可能性があるかわかりません。まずは、さまざまなことにチャレンジして、どんなことに自分が熱くなれるのか、どんなことをしている中で喜びを感じるのかを発見していくことが大切です。そして、長壁夫妻のように自ら行動していく中で新しい道が開けてくるものを感じます。今後、社会で活躍していく農二生が益々増えていくことを心より願っています。



1年生大学見学実施

11月17日(木)の1年生全員参加による大学訪問が実施されました。自分たちが希望する大学(東京大学、早稲田大学、慶應大学、東京農大、東京女子、中央大、法政、専修、駒澤など)をそれぞれの班に分かれ自分たちで計画立案しながら、見学を実施しました。ここ数年はコロナの蔓延でなかなか大学見学ができない状況ではありましたが、久しぶりに実施することができました。実際に大学の施設を見学し、大学や学部などの説明を受けることができ、進路について考えるよいきっかけとなりました。「百聞は一見にしかず」です。どんどん自ら動いて、2年後の入試に向けて、今から頑張ってほしいものです。



今後の模試予定・進路行事

<1,2年生>	1月 13日(金)	進研総合学力テスト(1,2年全員) *ここでさらなる飛躍を!
	2月 5日(日)	Z会アドバンスト(1年Iコース全員、他希望者)
	2月 5日(日)	駿台全国模試(2年Iコース全員、他希望者)
	3月22日(水)	駿台全国模試(2年Iコース全員、他希望者)
<3年生>	12月 3日(土)~ 4日(日)	駿台プレ共通テスト模試(希望)
	1月 14日(土)~15日(日)	共通テスト本番 *しっかりと心と体を調整!
	2月25日(水)	国公立個別試験 *気持ちを切らさず!
<行事予定>	12月17日(土)	第六回 保護者対象進路研究会 「看護・医療系大学について」
	1月21日(土)	第七回 保護者対象進路研究会 「受験期を見据えた勉強方法」
	2月18日(土)	第八回 保護者対象進路研究会 「農大・情報大の魅力について」

